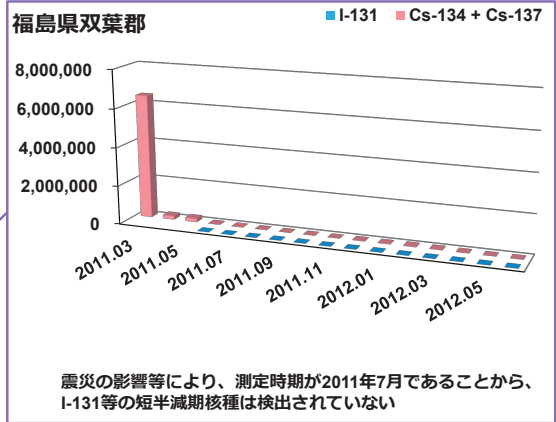
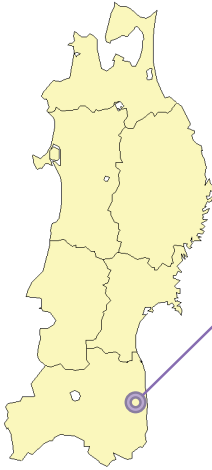


（単位： MBq/km²/月）



MBq/km²/月：メガベクレル/平方キロメートル/月

文部科学省発表：環境放射能水準調査結果（月間降下物）より作成

事故後、福島第一原子力発電所から放出された放射性ヨウ素と放射性セシウムが福島県双葉郡にどれだけ降下したかを時系列で表したものです。事故直後の2011（平成23）年3月には、放射性セシウムの降下が観測されましたが、2011（平成23）年4月以降、降下量が大幅に減少したことがわかります。

こうした降下物の増加に対応するため、政府の原子力災害現地対策本部は、2011（平成23）年3月16日から福島県内全域の水道事業を対象に毎日、水道水の検査を実施し、3月17日には厚生労働省が食品の暫定規制値を定め、流通制限を行うといった対応をとりました。

本資料への収録日：2013年3月31日

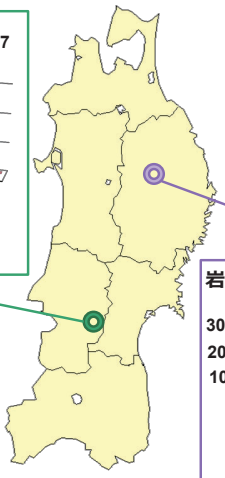
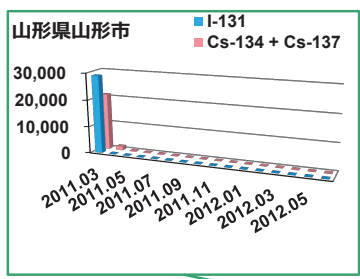
本情報は事故当時（2011年）の情報です。

関連Q&A

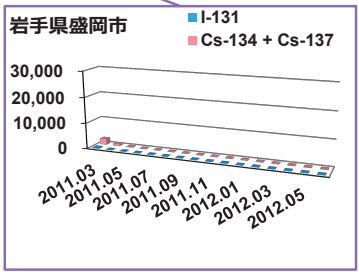
- ・3章 QA1 モニタリングの実施状況について教えてください
- ・3章 QA2 セシウムをはじめとする放射性物質の汚染状況の調査は怎么样了
- ・3章 QA3 農地土壌の放射性物質による汚染状況はどのようになっていますか
- ・3章 QA4 物理減衰やウエザリング効果は、どの程度だと考えられるのですか
- ・3章 QA7 航空機モニタリングでは、何を測定しているのですか
- ・3章 QA21 昔の核実験でできた放射性物質が今も残っているというのは本当ですか
- ・3章 QA23 1980年まで行われていた大気圏内核実験で生成したストロンチウム90やセシウム137が、現在でも一般の環境に残っているのは、なぜですか

降下物中の放射性物質

セシウムとヨウ素の降下量 (岩手県・山形県の経時変化)



(単位: MBq/km²/月)



MBq/km²/月: メガベクレル/平方キロメートル/月

文部科学省発表: 環境放射能水準調査結果 (月間降下物) より作成

福島第一原子力発電所から 110km 離れた山形市、250km 離れた盛岡市において、事故直後の 2011 (平成 23) 年 3 月に放射性セシウム、放射性ヨウ素の降下が観測されましたが、2011 (平成 23) 年 4 月以降は、放射性降下物が大幅に減少したことがわかります。こうした降下物に対応するため、2011 (平成 23) 年 3 月 17 日には厚生労働省が食品の暫定規制値を定め、流通制限を行い、3 月 18 日からは文部科学省 (当時) が宮城県及び福島県を除く各都道府県において毎日 1 地点の水道水の検査を実施しました。

本資料への収録日: 2013 年 3 月 31 日

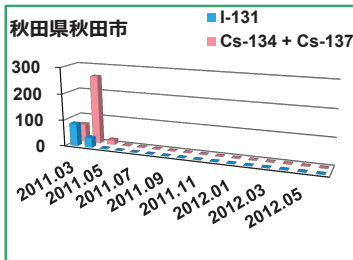
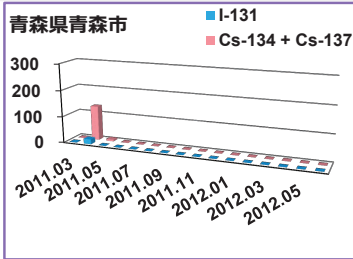
本情報は事故当時 (2011 年) ~ 2012 年の情報です。

関連 Q&A

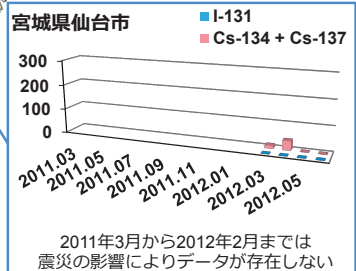
- ・ 3 章 QA1 モニタリングの実施状況について教えてください
- ・ 3 章 QA2 セシウムをはじめとする放射性物質の汚染状況の調査は怎么样了
- ・ 3 章 QA3 農地土壌の放射性物質による汚染状況はどのようになっていますか
- ・ 3 章 QA4 物理減衰やウエザリング効果は、どの程度だと考えられるのですか
- ・ 3 章 QA7 航空機モニタリングでは、何を測定しているのですか
- ・ 3 章 QA21 昔の核実験でできた放射性物質が今も残っているというのは本当ですか
- ・ 3 章 QA23 1980 年まで行われていた大気圏内核実験で生成したストロンチウム 90 やセシウム 137 が、現在でも一般の環境に残っているのは、なぜですか

降下物中の放射性物質

セシウムとヨウ素の降下量（青森県・秋田県・宮城県の経時変化）



（単位： MBq/km²/月）



MBq/km²/月：メガベクレル/平方キロメートル/月

文部科学省発表：環境放射能水準調査結果（月間降下物）
放射能情報サイトみやぎ より作成

福島第一原子力発電所から270km離れた秋田市、380km離れた青森市において、事故直後の2011（平成23）年3月、4月に放射性セシウム、放射性ヨウ素の降下が観測されましたが、2011（平成23）年4月以降は、放射性降下物が大幅に減少したことがわかります。

こうした降下物に対応するため、2011（平成23）年3月17日には厚生労働省が食品の暫定規制値を定め、流通制限を行い、3月18日からは文部科学省（当時）が宮城県及び福島県を除く各都道府県において毎日1地点の水道水の検査を実施しました。

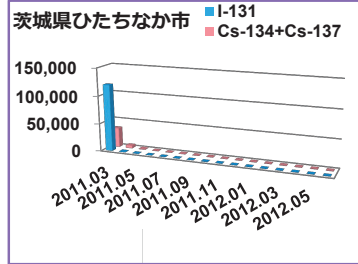
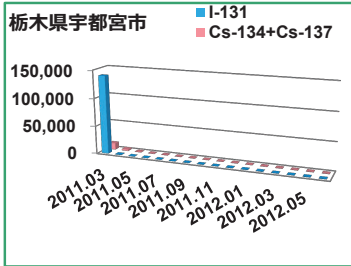
本資料への収録日：2013年3月31日

本情報は事故当時（2011年）～2012年の情報です。

関連Q&A

- ・3章 QA1 モニタリングの実施状況について教えてください
- ・3章 QA2 セシウムをはじめとする放射性物質の汚染状況の調査はどうなっていますか
- ・3章 QA3 農地土壌の放射性物質による汚染状況はどのようになっていますか
- ・3章 QA4 物理減衰やウエザリング効果は、どの程度だと考えられるのですか
- ・3章 QA7 航空機モニタリングでは、何を測定しているのですか
- ・3章 QA21 昔の核実験でできた放射性物質が今も残っているというのは本当ですか
- ・3章 QA23 1980年まで行われていた大気圏内核実験で生成したストロンチウム90やセシウム137が、現在でも一般の環境に残っているのは、なぜですか

（単位： MBq/km²/月）



MBq/km²/月：メガベクレル/平方キロメートル/月

文部科学省発表：環境放射能水準調査結果（月間降下物）より

福島第一原子力発電所から 140km 離れた宇都宮市、120km 離れたひたちなか市において、事故直後の 2011（平成 23）年 3 月に放射性セシウム、放射性ヨウ素の降下が観測されましたが、2011（平成 23）年 4 月以降は、放射性降下物が大幅に減少したことがわかります。

こうした降下物に対応するため、2011（平成 23）年 3 月 17 日には厚生労働省が食品の暫定規制値を定め、流通制限を行い、3 月 18 日からは文部科学省（当時）が宮城県及び福島県を除く各都道府県において毎日 1 地点の水道水の検査を実施しました。

本資料への収録日：2013 年 3 月 31 日

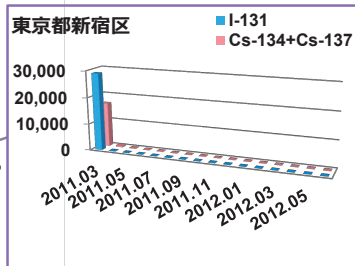
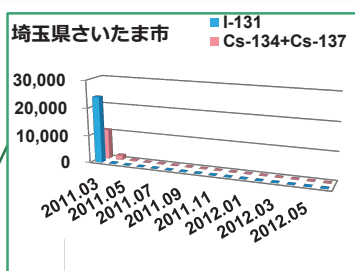
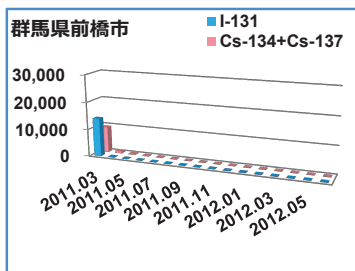
本情報は事故当時（2011 年）～ 2012 年の情報です。

関連 Q&A

- ・ 3 章 QA1 モニタリングの実施状況について教えてください
- ・ 3 章 QA2 セシウムをはじめとする放射性物質の汚染状況の調査はどうなっていますか
- ・ 3 章 QA3 農地土壌の放射性物質による汚染状況はどのようになっていますか
- ・ 3 章 QA4 物理減衰やウエザリング効果は、どの程度だと考えられるのですか
- ・ 3 章 QA7 航空機モニタリングでは、何を測定しているのですか
- ・ 3 章 QA21 昔の核実験でできた放射性物質が今も残っているというのは本当ですか
- ・ 3 章 QA23 1980 年まで行われていた大気圏内核実験で生成したストロンチウム 90 やセシウム 137 が、現在でも一般の環境に残っているのは、なぜですか

降下物中の放射性物質

セシウムとヨウ素の降下量（群馬県・埼玉県・東京都の経時変化）



（単位： MBq/km²/月）

MBq/km²/月：メガベクレル/平方キロメートル/月

文部科学省発表：環境放射能水準調査結果（月間降下物）より

福島第一原子力発電所から 210km 離れた前橋市、さいたま市、230km 離れた東京都新宿区において、事故直後の 2011（平成 23）年 3 月に放射性セシウム、放射性ヨウ素の降下が観測されましたが 2011（平成 23）年 4 月以降は、放射性降下物が大幅に減少したことがわかります。

こうした降下物に対応するため、2011（平成 23）年 3 月 17 日には厚生労働省が食品の暫定規制値を定め、流通制限を行い、3 月 18 日からは文部科学省（当時）が宮城県及び福島県を除く各都道府県において毎日 1 地点の水道水の検査を実施しました。

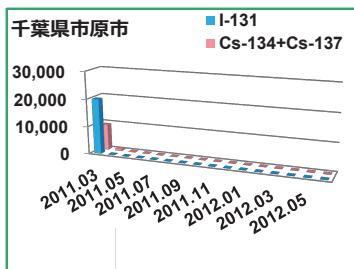
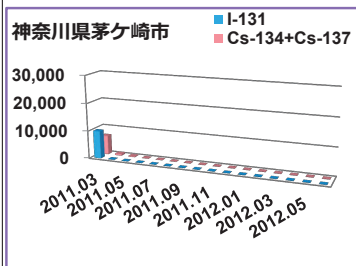
本資料への収録日：2013 年 3 月 31 日

本情報は事故当時（2011 年）～ 2012 年の情報です。

関連 Q&A

- ・ 3 章 QA1 モニタリングの実施状況について教えてください
- ・ 3 章 QA2 セシウムをはじめとする放射性物質の汚染状況の調査はどうなっていますか
- ・ 3 章 QA3 農地土壌の放射性物質による汚染状況はどのようになっていますか
- ・ 3 章 QA4 物理減衰やウエザリング効果は、どの程度だと考えられるのですか
- ・ 3 章 QA7 航空機モニタリングでは、何を測定しているのですか
- ・ 3 章 QA21 昔の核実験でできた放射性物質が今も残っているというのは本当ですか
- ・ 3 章 QA23 1980 年まで行われていた大気圏内核実験で生成したストロンチウム 90 やセシウム 137 が、現在でも一般の環境に残っているのは、なぜですか

（単位： MBq/km²/月）



MBq/km²/月：メガベクレル/平方キロメートル/月

文部科学省発表：環境放射能水準調査結果（月間降下物）より

福島第一原子力発電所から230km離れた市原市、270km離れた茅ヶ崎市において、事故直後の2011（平成23）年3月に放射性セシウム、放射性ヨウ素の降下が観測されましたが、2011（平成23）年4月以降は、放射性降下物が大幅に減少したことがわかります。

こうした降下物に対応するため、2011（平成23）年3月17日には厚生労働省が食品の暫定規制値を定め、流通制限を行い、3月18日からは文部科学省（当時）が宮城県及び福島県を除く各都道府県において毎日1地点の水道水の検査を実施しました。

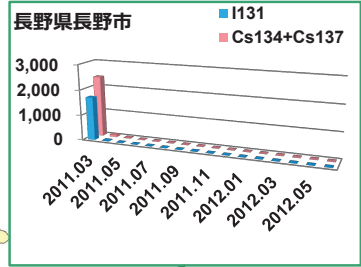
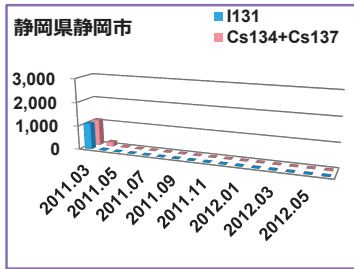
本資料への収録日：2013年3月31日

本情報は事故当時（2011年）～2012年の情報です。

関連Q&A

- ・3章 QA1 モニタリングの実施状況について教えてください
- ・3章 QA2 セシウムをはじめとする放射性物質の汚染状況の調査はどうなっていますか
- ・3章 QA3 農地土壌の放射性物質による汚染状況はどのようになっていますか
- ・3章 QA4 物理減衰やウエザリング効果は、どの程度だと考えられるのですか
- ・3章 QA7 航空機モニタリングでは、何を測定しているのですか
- ・3章 QA21 昔の核実験でできた放射性物質が今も残っているというのは本当ですか
- ・3章 QA23 1980年まで行われていた大気圏内核実験で生成したストロンチウム90やセシウム137が、現在でも一般の環境に残っているのは、なぜですか

（単位： MBq/km²/月）



MBq/km²/月：メガベクレル/平方キロメートル/月

文部科学省発表：環境放射能水準調査結果（月間降下物）より

福島第一原子力発電所から 270km 離れた長野市、360km 離れた静岡市において、事故直後の 2011（平成 23）年 3 月に放射性セシウム、放射性ヨウ素の降下が観測されましたが、2011（平成 23）年 4 月以降は、放射性降下物が大幅に減少したことがわかります。こうした降下物に対応するため、2011（平成 23）年 3 月 17 日には厚生労働省が食品の暫定規制値を定め、流通制限を行い、3 月 18 日からは文部科学省（当時）が宮城県及び福島県を除く各都道府県において毎日 1 地点の水道水の検査を実施しました。

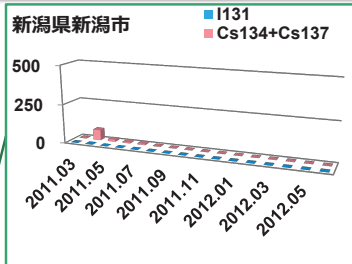
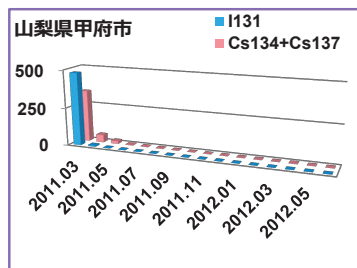
本資料への収録日：2013 年 3 月 31 日

本情報は事故当時（2011 年）～ 2012 年の情報です。

関連 Q&A

- ・ 3 章 QA1 モニタリングの実施状況について教えてください
- ・ 3 章 QA2 セシウムをはじめとする放射性物質の汚染状況の調査は怎么样了
- ・ 3 章 QA3 農地土壌の放射性物質による汚染状況はどのようになっていますか
- ・ 3 章 QA4 物理減衰やウエザリング効果は、どの程度だと考えられるのですか
- ・ 3 章 QA7 航空機モニタリングでは、何を測定しているのですか
- ・ 3 章 QA21 昔の核実験でできた放射性物質が今も残っているというのは本当ですか
- ・ 3 章 QA23 1980 年まで行われていた大気圏内核実験で生成したストロンチウム 90 やセシウム 137 が、現在でも一般の環境に残っているのは、なぜですか

（単位： MBq/km²/月）



MBq/km²/月：メガベクレル/平方キロメートル/月

文部科学省発表：環境放射能水準調査結果（月間降下物）より

福島第一原子力発電所から 300km 離れた甲府市において、事故直後の 2011（平成 23）年 3 月に放射性セシウム、放射性ヨウ素の降下が観測されましたが、2011（平成 23）年 4 月以降は、放射性降下物が大幅に減少したことがわかります。180km 離れた新潟市においては、事故直後の 2011（平成 23）年 3 月においても、放射性セシウム、放射性ヨウ素の降下が少なかったことがわかります。

こうした降下物に対応するため、2011（平成 23）年 3 月 17 日には厚生労働省が食品の暫定規制値を定め、流通制限を行い、3 月 18 日からは文部科学省（当時）が宮城県及び福島県を除く各都道府県において毎日 1 地点の水道水の検査を実施しました。

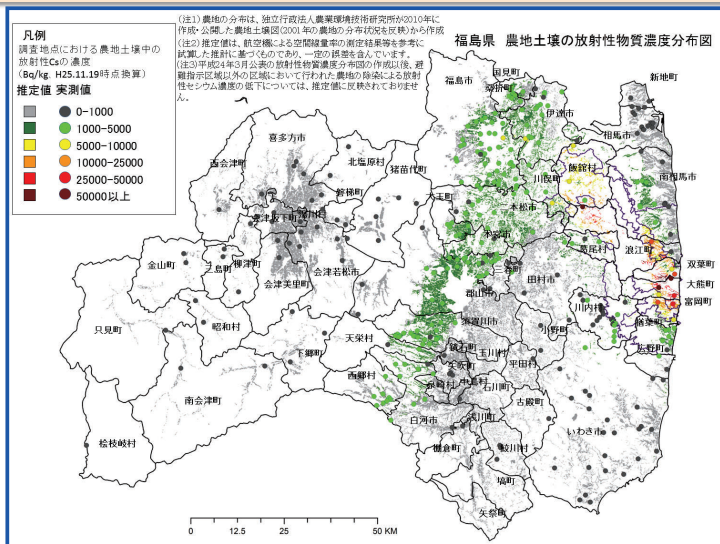
本資料への収録日：2013 年 3 月 31 日

本情報は事故当時（2011 年）～ 2012 年の情報です。

関連 Q&A

- ・ 3 章 QA1 モニタリングの実施状況について教えてください
- ・ 3 章 QA2 セシウムをはじめとする放射性物質の汚染状況の調査はどうなっていますか
- ・ 3 章 QA3 農地土壌の放射性物質による汚染状況はどのようになっていますか
- ・ 3 章 QA4 物理減衰やウエザリング効果は、どの程度だと考えられるのですか
- ・ 3 章 QA7 航空機モニタリングでは、何を測定しているのですか
- ・ 3 章 QA21 昔の核実験でできた放射性物質が今も残っているというのは本当ですか
- ・ 3 章 QA23 1980 年まで行われていた大気圏内核実験で生成したストロンチウム 90 やセシウム 137 が、現在でも一般の環境に残っているのは、なぜですか

放射性セシウム（福島県）



基準日（平成25年11月19日）を設定して実測値を補正

Bq/kg:ベクレル/キログラム

農林水産省報道発表 平成26年10月17日

福島第一原発事故に伴い、今後の営農に向けた取組を進めるために、福島県内のほ場341か所において農地土壌がどの程度放射性物質に汚染されているか調査が行われました。

環境省が行っている一般の土壌調査では深さ約5cmまでの土壌が採取されていますが、農地の土壌調査では放射性物質が耕起によって攪拌される深さや農作物が根を張る深さなどを考慮して、地表から深さ約15cmまでの土壌が採取されています。結果としては、前回（2013（平成25）年8月公表）の濃度分布図と比較して、避難指示区域外の水田で約17%、避難指示区域外の畑で約20%、牧草地及び樹園地で約15%、放射性セシウムの濃度が低下していることがわかりました。なお、この期間における放射性セシウムの物理的減衰に伴う土壌濃度の低下は約11%です。

本資料への収録日：2013年3月31日

改訂日：2014年3月31日

改訂日：2015年3月31日

本情報は2014年の情報で、事故から現在に至る途中経過の情報です。

関連Q&A

- ・3章 QA1 モニタリングの実施状況について教えてください
- ・3章 QA2 セシウムをはじめとする放射性物質の汚染状況の調査はどうなっていますか
- ・3章 QA3 農地土壌の放射性物質による汚染状況はどのようになっていますか
- ・3章 QA4 物理減衰やウエザリング効果は、どの程度だと考えられるのですか
- ・3章 QA7 航空機モニタリングでは、何を測定しているのですか
- ・3章 QA21 昔の核実験でできた放射性物質が今も残っているというのは本当ですか
- ・3章 QA23 1980年まで行われていた大気圏内核実験で生成したストロンチウム90やセシウム137が、現在でも一般の環境に残っているのは、なぜですか